

神奈川県立 精神医療センターだより

芹香病院／せりがや病院



長期在院者の退院促進について

神奈川県立精神医療センター
芹香病院 退院支援会議

平成16年9月に厚生労働省精神保健福祉対策本部から出された「精神保健医療福祉の改革ビジョン」においては、受入れ条件さえ整えば約7万人の方が退院可能とされ、今後10年間でそのための施策を推進していくことが明記された。当院では、「入院医療中心から地域生活中心へ」という流れの中で、既に平成15年度から、長期在院者の退院促進の取組みを行っているので、その内容を紹介します。

1 取組みの狙い

- ①モデル事業（ストレングス視点）の実施を通して、病院全体の意識の共有化を図る。
- ②長期在院者全ての方の個別支援計画を作成する。（いずれは社会的入院も）
- ③多職種チームでの定例カンファレンス、ケア会議を業務として位置付け、組織的に推進する。
- ④長じて入院から退院までのチームの関わりを体系化する。
- ⑤幾つかのテーマや技術が内包されたグループプログラムを作成する。
- ⑥総じてこれらのことが病院全体に一般化される。
- ⑦患者様の権利擁護の意識を高めることにつながる。（社会的入院は人権侵害）
- ⑧行政に国の退院促進支援事業の予算化を働きかける。

2 モデル事業の実施内容

平成17年度からモデル事業を実施した。病棟看護師には、所属病棟における事業全体のケアマネジャー役として推進員の役割を担ってもらった。平成18年度は生活プラン支援事業に名称変更し、内容も充実して実施した。

- ①モデルケースの退院に向けた個別支援計画を作成し、多職種チームで支援を行った。
- ②モデルケースのグループ化を行い、計18回（前期9回、後期9回）のプログラムを実施した。
- ③平成18年度から横浜市退院促進支援事業を活用するとともに支援会議の構成員として参加した。

退院促進の取組みは、方法や頻度の違いはあるものの、これまでに病棟単位で実施されてきたので、それらを集約し、共有化、体系化を図り、病院全体としての取組みになることを目指した。

3 退院者のフォロー

平成17年度は14名のモデルケースのうち、5名が退院し、平成18年度は7名のモデルケースで1名が退院、2名が退院予定となった。入院期間は最短1年8月から最長23年であった。その多くの方が、訪問看護や作業所などを利用している。これらは、患者様の入院中から病棟スタッフが退院に向けた取組みを行ってきたことと、患者様自身も諦めずにチャレンジした結果であり、それを訪問看護や作業所などが支援しているということである。何より、本人の希望や底力がまずありきだが、それを信じて関わってきた数多くのスタッフによる下支えの成果でもあり、今回の退院促進に関する取組みもその一部に過ぎないと考えている。

当院では、長期在院者の退院促進に向けて、「退院支援会議」を設置し、具体的な事業を実施してきたが、会議の構成員にはかなりの負担であったと思っている。また、それを支える病棟をはじめとして、各セクション、外部機関からも数多くの協力を得ている。私たちとしては、事業を運営していく中で、側面的に多セクションが関わり、退院という成果に結び付けられたことは、この事業が正にチームアプローチそのものであったと実感している。

〒233-0006 横浜市港南区芹が谷 2-5-1

神奈川県立精神医療センター

TEL 045-822-0241(代) FAX 045-825-3852

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/seisin/index.htm>

新任職員の紹介

●本年4月に、精神医療センターに来られた医療スタッフを紹介します。いずれの者もセンターの基本理念を踏まえ、皆様に信頼される心あたたかい医療を提供するよう努力しますので、よろしくお願いいたします。



山田医師
(芹香病院)



中村医師
(芹香病院)



小林医師
(芹香病院)



天貝医師
(芹香病院)



福島医師
(芹香病院)



黒澤医師
(芹香病院)



池田医師
(せりがや病院)



堀 医師
(せりがや病院)



前野看護科長
(芹香病院)



大場看護科長
(せりがや病院)



横山医師
(芹香病院研修医)



●芹香病院

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
医 長	山田 康弘	薬 剤 師	岡田 景好	看 護 師	重村 毅洋
"	中村 元昭	病棟看護科長	前野 紀子	"	東 和明
医 師	小林 桜児	主任看護師	江崎 みゆき	"	馬 目尚史
"	天貝 徹	看 護 師	鈴木 哲也	"	長屋 怜美
"	福島 浩貴	"	中谷 将	"	月野木 英司
"	黒澤 文貴	"	米田 麻衣子	"	加藤 充弘
専 門 薬 剤 師	長野 眞弓	"	依田 直子	医師(研修医)	横山 琢也
"	森田 陽子	"	大場 なつき	栄 養 士	横山 琢也

●せりがや病院

職名	氏名	職名	氏名
医 長	池田 英二	病棟看護科長	大場 久美子
医 師	堀 岳人	主任看護師	中嶋 美和子

芹香病院

《訪問看護》

芹香病院の訪問看護は、平成15年度の本格実施から4年が経過し、平成18年度の訪問件数は2000件を超えるまでになりました。現在では、月間200件を超えることも珍しくありません。このことは、当院の退院患者様をはじめ、地域で生活をしている患者様の訪問看護に対する要望の高まりであり、当院としても的確なサービスを提供していると考えられます。

訪問看護は、患者様がご家庭や地域の中でより安定した快適な生活を送ることができるようサポートするものであり、訪問したスタッフが患者様の生活環境の改善、不安や困っていることへの相談などに応じています。例えば、薬の飲み残しや飲みすぎがある、掃除洗濯や金銭管理などがうまくできない、食生活や生活のリズムが乱れているのに改善できないなど、様々な相談を受け、患者様と一緒に改善方法を考え、実行に移しています。

当院では、平成18年度には専任スタッフを増強し、さらに平成19年度には訪問専用車も3台に増やすなど、訪問看護体制の充実に努めています。訪問看護をご希望される方は、主治医、病棟看護科長、外来看護科長、ケースワーカーにお申し出ください。

本格実施後の訪問看護件数

H 15年度	368件
H 16年度	746件
H 17年度	1,152件
H 18年度	2,113件

～ 精神科デイケア合同作品展がありました ～

去る1月22日から1月26日まで、横浜駅近くのかながわ県民センターで「第11回精神科デイケア合同作品展」が開催されました。これは、年1回、県内の精神科病院やクリニックのデイケア部門が参加し、日頃の活動や製作した作品を展示し、広く一般の皆様にも披露する活動です。芹香病院のデイケアからは、絵画・革細工・文藝などの作品展示や楽器演奏の様子を撮影したビデオの上映、さらにはデイケアのメンバー達が店員となり、作品の販売をしました。中でも、パンチ片を利用したベニヤ板1枚分のモザイク画『ゴッホの麦畑』は、完成までに2年を費やした作品であり、完成した時にはみんなで思わずパンサイ三唱をして喜び合った作品です。(現在デイケアの入り口に飾ってあります!) 多くの方々から、素晴らしい、アイデアが良いなどのうれしい評価をいただき、メンバーからも「来年も出品したい」など、意欲的な感想もありました。また、新聞社の取材(右記写真)もあり、いつも以上に盛り上がり、みんなの結束が強まったようです。スタッフ一同、今回も彼らの隠れた能力や精神科疾患についての理解を深めるよい機会となったと考えており、さらに活動を支援していきたいと思っています。



～ SST(Social Skills Training) 生活技能訓練 ～

SSTは、精神科疾患をもつ人々の、特にコミュニケーション技能を高めるリハビリテーションのひとつであり、自立を支援するツール(道具)であることは知られてきていますが、医療以外の分野でも幅広く応用されていることは、ご存じない方もいらっしゃると思います。恒例のSST院外普及の会(自立支援者懇談会)では、平成19年3月15日に「更生保護SST研究会」の高橋和雄先生(写真左)から、更生保護の分野に先駆的SSTを導入されてきた経験についてのお話をうかがいました。人間関係の拙さからくる犯罪、非行の繰り返しや偏見は、精神科医療においても、病状の再発、再入院、偏見と類似したものがあ、SSTがこれらの悪循環を食い止める力となりうることを改めて感じました。また、「健康管理のSST」と題し、芹香病院の島田部長が、メタボリック症候群などを予防するための生活習慣の改善を目標としたオリジナルのモジュールを紹介しました。当日は、ご家族、関係福祉施設、当院職員など73名の参加があり、様々なご意見を伺うこともでき、有意義な会となりました。

なお、当SST運営会議チームの業績が評価され、平成18年度末に県病院事業庁長表彰をうけました。このことは、SSTの当事者メンバーの喜びにもつながり、彼らにも我々にも有効な正のフィードバック(強化因子)になったようでした。



『せりがや病院家族教室』

アルコール・薬物依存症は進行性の病気ですが、依存症本人がなかなか治療に結びつかず、家族が困り果てることも多い病気です。問題を感じているご家族が、まず、依存症はどんな病気か、家族はどう対応したらいいのかを学んでいくことは、依存症者の回復にとって大きな一歩です。せりがや病院では、こうした家族のためにアルコール家族教室を月3回、薬物家族教室を月2回開催しております。アルコール家族教室は、多くの医療・関係機関等で行われておりますが、薬物家族教室についてはいまだ少ないのが現状です。そこで、今回は当院の薬物家族教室についてご報告します。

平成18年度の薬物家族教室の参加者延数は347名（平成16年度136名、平成17年度252名）で、教室1回平均、約15名の参加があるなど年々増加傾向にあります。母親の参加が全体の半数強を占めるものの、父親の参加も年々増えてきており、3割近くを占めるようになってきています。参加者の内訳を見ると、政令市以外にお住まいの方が4割強を占め、次いで横浜市、川崎市と続くことから県全域からの参加がうかがえ、また通院や入院患者様のご家族だけではなく、未受診の方のご家族にもご参加いただいております。

中でも、昨年度から新たにスタートした横浜ダルクのスタッフやナラノンメンバーによる特別講座には、とりわけ多くの参加者があり、大きな反響をいただきました。本年度も4回のテーマを1クールとするスタイルに加え、反響の大きかった特別講座を8月、10月、平成20年1月に開催していく予定です。

アルコール・薬物の問題を持ち、その対応に悩み、苦しんでいる多くのご家族の方に、当院の家族教室への参加をお勧めしたいと思います。

『せりがや会』

せりがや病院では、毎年4月の第1日曜日に「せりがや会」を開催しており、今年で28回目を迎えました。この会は、自助グループの方や退院された患者様との交流を深め、参加者、入院患者様、職員にとっても学びや楽しみのある場でもあります。会の運営は、自助グループの方が主体となりますが、当院職員も参加、協力しています。

今回は、一般（自助グループの方々含）122名、入院患者様38名、職員15名と総勢175名の参加がありました。最近の3年間はいずれも雨で、屋内開催とならざるを得ず、予報では今年も悪天候が心配されましたが、当日は素晴らしい青空となりました。また、名物の桜も満開で、風に運ばれながら舞う花びらに参加した皆様も感嘆しきりでした。手づくりの横断幕も会に花を添え、参加した方の表情も穏やかないい雰囲気の中で、会は進行しました。司会者からの突然の指名にもかかわらず、「話は苦手」とおっしゃりながらもご自分の体験を話される姿とその内容には、心打たれるものがありました。入院患者様も今の自分をみつめ、回復について考えるよい機会になったのではないかと思います。

なにより喜ばしいことは、1年、3年、5年、10年、またそれ以上に断酒を続け回復されている皆様の姿がここにあることです。入院されていた頃とは別の姿がそこにありました。私たち医療者が、短い入院期間中に患者様やご家族にできる支援は、患者様の長い人生をからみると「点」でしかありません。退院後にお一人お一人が一步を踏み出し、自分らしい生き方や生活をしていくための糧となっている自助グループの皆様の力の大きさにはいつも驚かされます。

「せりがや会」は、また、新任職員の紹介もさせていただく良い機会になっています。次年度もこのような素晴らしい青空のもとに開催できることを願っています。

●職員募集（非常勤）

当センターでは、看護師さんと作業療法士さんを募集しています。ご希望の方は、センター総務課までお問い合わせ下さい。

【看護師】

勤務先：「芹香病院」又は「せりがや病院」

業務内容：病棟勤務（夜勤あり）

待遇：県規定により経験年数に応じ処遇

【作業療法士】

勤務先：「芹香病院」

業務内容：患者様への作業療法

待遇：県規定により経験年数に応じ処遇

《問合せ先》 神奈川県立精神医療センター総務局総務課

診療案内

芹香病院

- 初診：受付時間は月曜日～金曜日の午前8時30分～午前11時
- 再診：時間予約制（予約変更の場合は、事前に外来まで連絡を）
- 休診日：日曜日・祝祭日・年末年始
- 老人クリニック：毎週水曜日の午後
- 救急外来：月・水・金曜日は午後10時まで、火・木・土・日曜日は24時間対応

せりがや病院（依存症専門医療）

- 初診：時間予約制で受付時間は月曜日～金曜日の午前8時30分～午前11時
- 再診：時間予約制で受付時間は月曜日～土曜日の午前8時30分～午前11時30分
- 休診日：日曜日・祝祭日・年末年始